

ふれ愛タクシー登録者・利用者アンケート調査結果概要

■調査概要

1. 調査の実施方法

調査対象者	ふれ愛タクシー登録者・利用者：265人
調査方法	郵送配布、郵送回収（Web回答も可）
調査時期	令和5年11月16日（木）～令和5年12月3日（日）
回収数	141人

- ・図表中の「N」は設問の有効回答数を示します。
- ・図表中の「MA」は複数回答の設問での有効回答数合計を示します。
- ・調査結果のグラフは、各回答の比率（%）で表示しています。
- ・各回答の比率（%）は、すべて小数点以下第2位を四捨五入した数値であるため、各回答の比率（%）の合計が100%にならない場合があります。
- ・複数回答の場合、回答件数の合計は回答者数(100%)を超える場合があります。
- ・一つに回答に対して複数回答している等、本人の意思が読み取れない回答については集計上無回答に分類しています。

■結果概要

1. 回答者の属性

①年齢、居住地域、自動車の運転状況

- ・回答者の年齢は、「75歳以上」が69.5%と最も高くなっています。
- ・居住地域は、布川地区が56.0%、文地区が31.2%と高くなっています。
- ・現在免許証を持っていない又は持っているがあまり運転しない回答者が多い状況ですが、一部、普段、運転している回答者も含まれます。

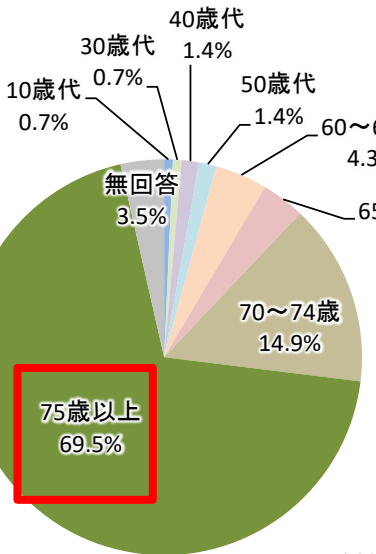


図 年齢

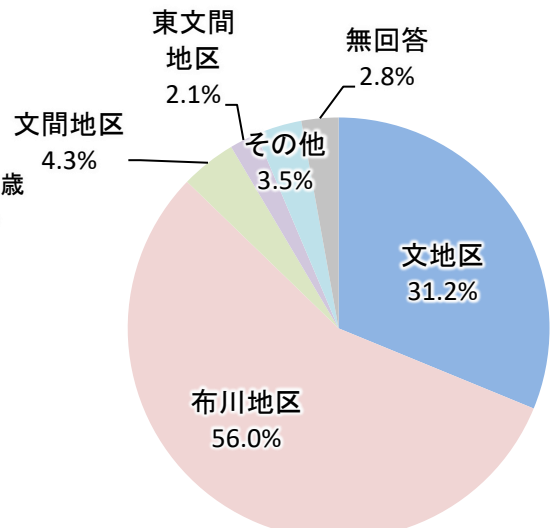


図 居住地域

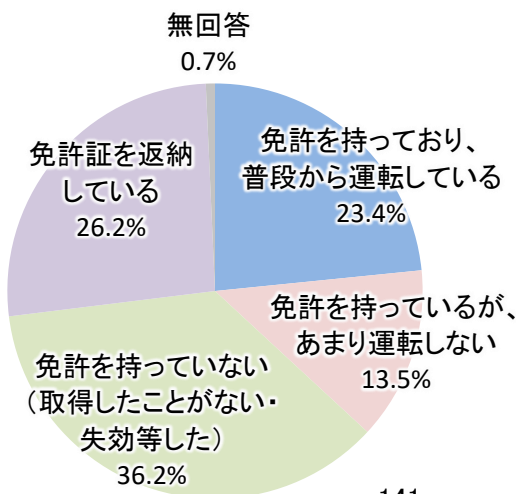


図 自動車の運転状況

2. 利用状況や利用目的

- ・登録者のうち、82.3%は利用しているもしくは利用したことがある回答となっています。一方で、一度も利用したことがない回答者が17.7%となっています。
- ・利用目的としては、通院が最も多い状況で、買物でも利用している実態が見えます。
- ・利用頻度は、月に数日程度の利用が多くなっています。

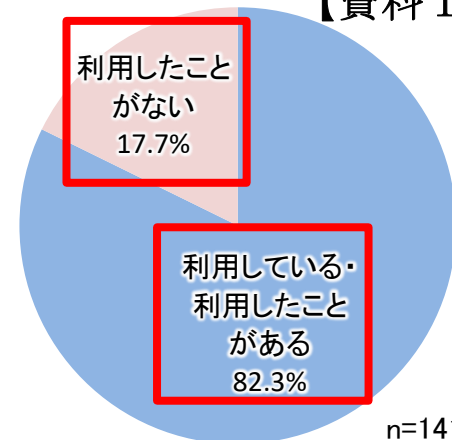


図 ふれ愛タクシーの利用有無

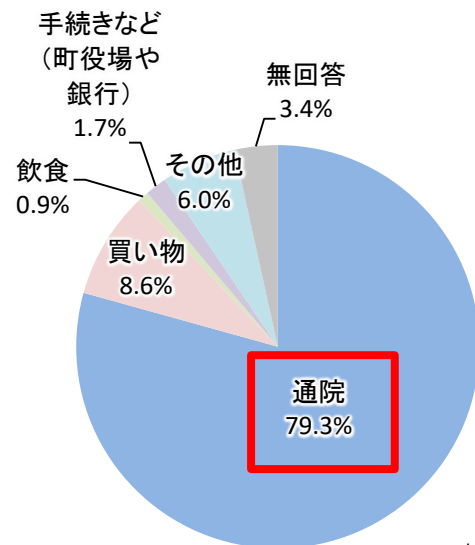


図 1番目に多い利用方法の利用目的

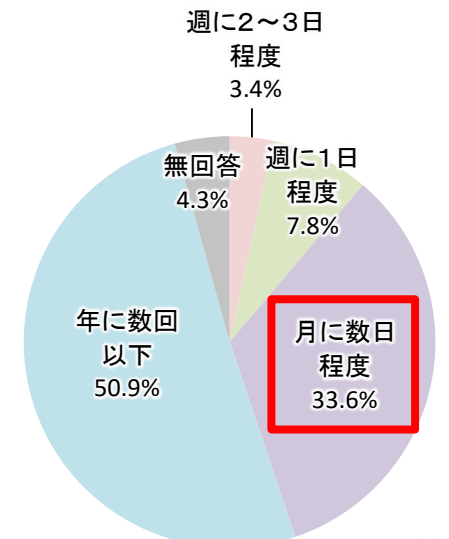


図 1番目に多い利用方法の利用頻度

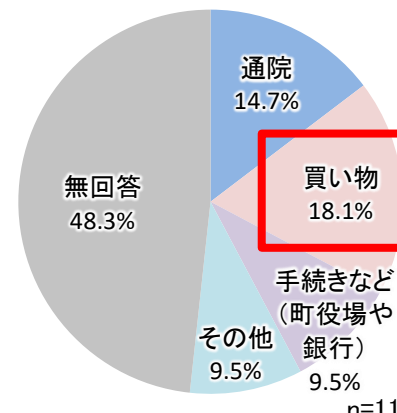


図 2番目に多い利用方法の利用目的

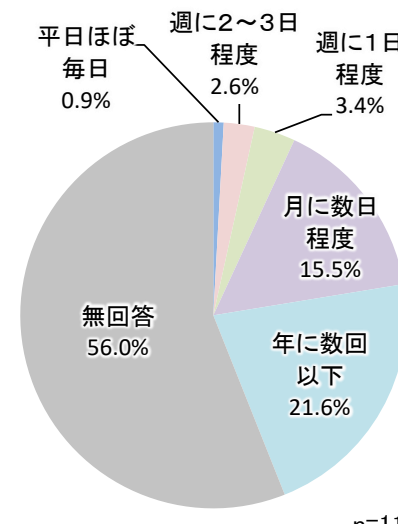


図 2番目に多い利用方法の利用頻度

3. 利用者の特性

- ・往復での利用が多いものの、一部で、行きみの利用となっています。
その理由としては、時間に合う便がないからとの回答となっており、その場合、路線バス、自動車(家族等の運転)、福ちゃん号となっています。

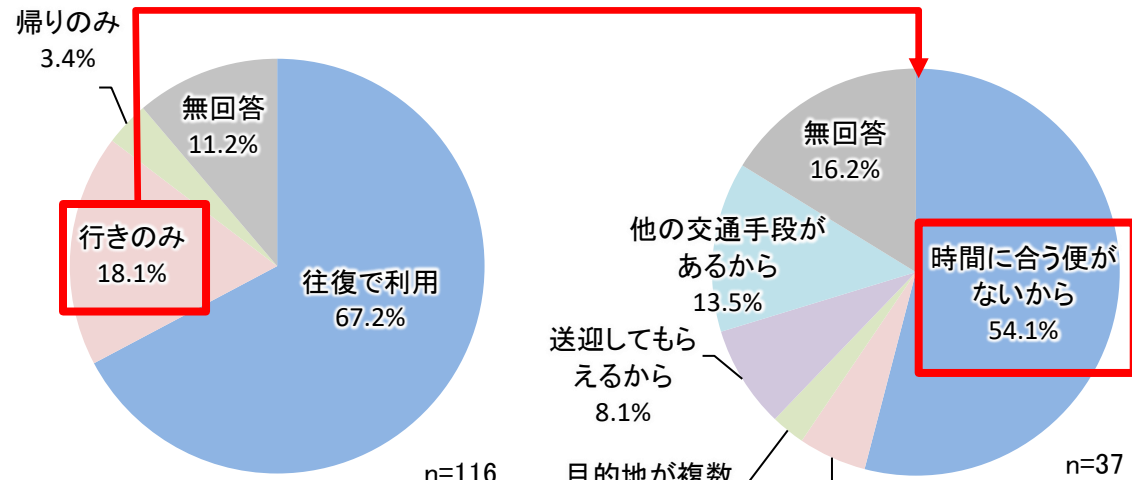


図 1 番目に多い利用方法の往復の利用状況

図 往復で利用していない理由

4. 満足状況と改善ニーズ

- ・目的地や運賃については満足している状況が見える一方で、運行時間帯については、満足度が低い状況が見えます。その結果として、一部、行きみの利用となっていることが考えられます。
- ・改善ニーズとしては、土日祝日の運行、運行終了時間の延長、予約締切時間の短縮などが求められています。

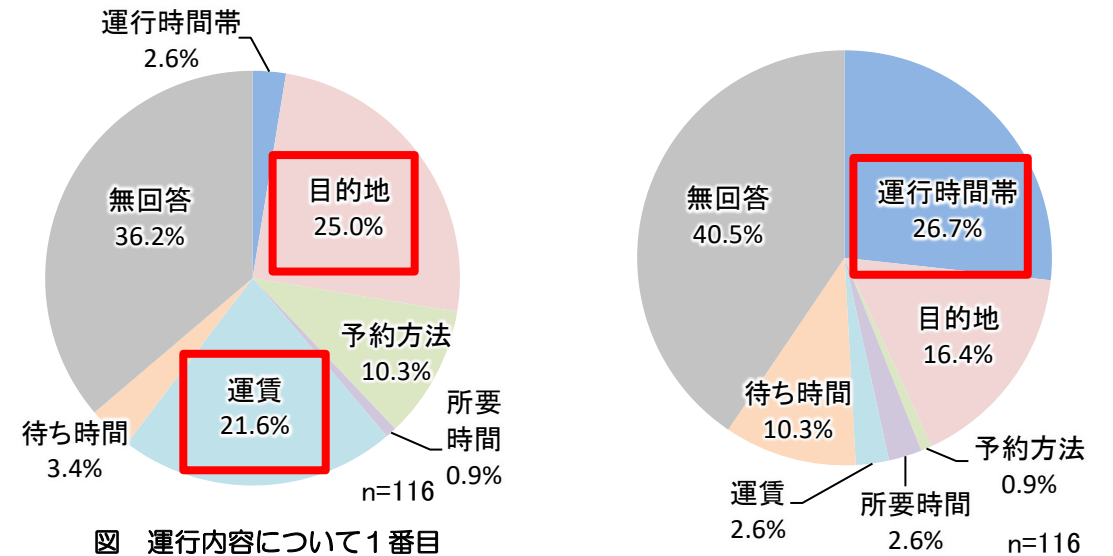


図 運行内容について1番目に満足している項目

図 運行内容について1番目に不満に思う項目

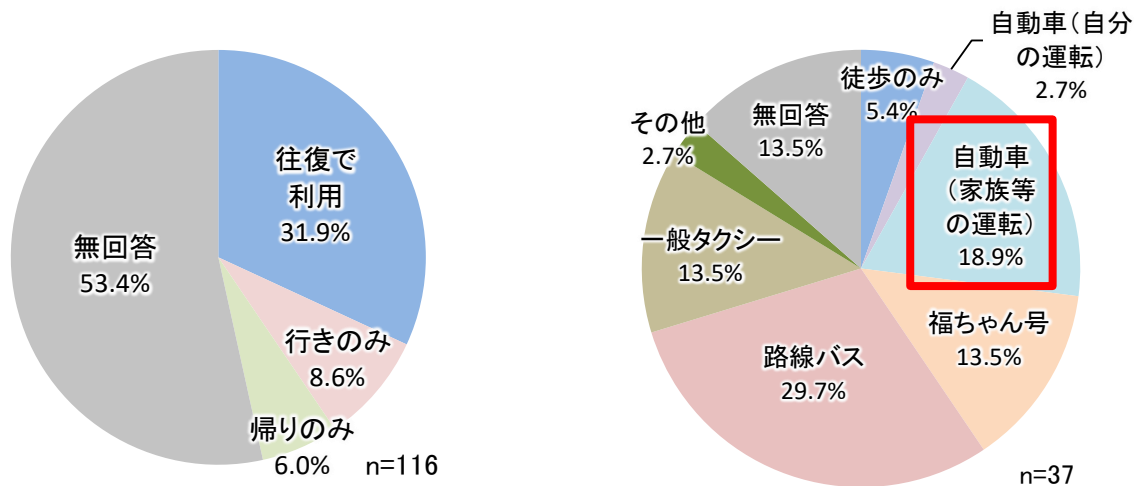


図 2番目に多い利用方法の往復の利用状況

図 往復で利用していない場合のもう片方の移動手段

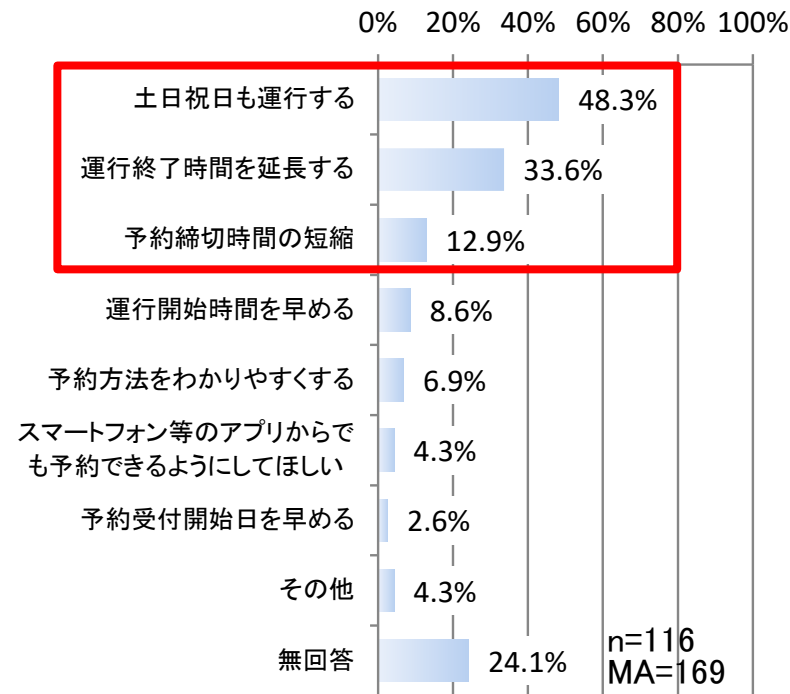


図 ふれ愛タクシーの改善点

・自動車を運転できない町民が多く利用していますが、一部、普段、自動車を運転している町民も登録(利用)していると想定されます。

・通院や買物での移動を支えています。

・往復利用が多いものの、一部で片道利用となっており、運行時間が要因となっています。

・土日祝日の運行、運行終了時間の延長、予約締切時間の短縮などが求められており、今後、ニーズの深掘りや実現可能性に向けた検討が必要となります。

5. 非利用者の特性

- ・登録しているものの、利用していない理由として、「自分で自動車を運転できるから」との回答が多いものの、「利用方法がよくわからず、使いづらいから」との回答も見られます。
- ・使いづらい点として、予約方法のわかりにくさ、予約締切時間30分前で利用しづらいとの回答が見られます。
- ・回答者数が少ないものの、改善されれば、利用する意向を示しています。

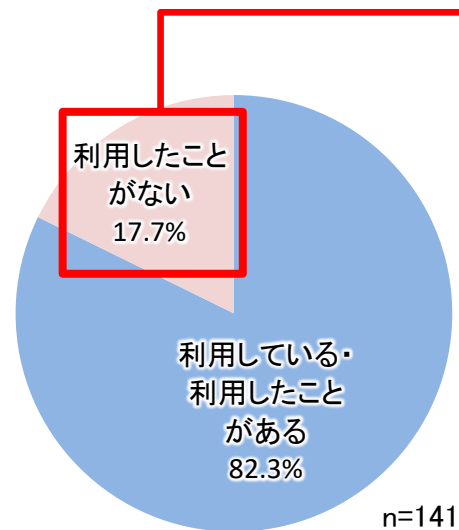


図 ふれ愛タクシーの利用有無（再掲）

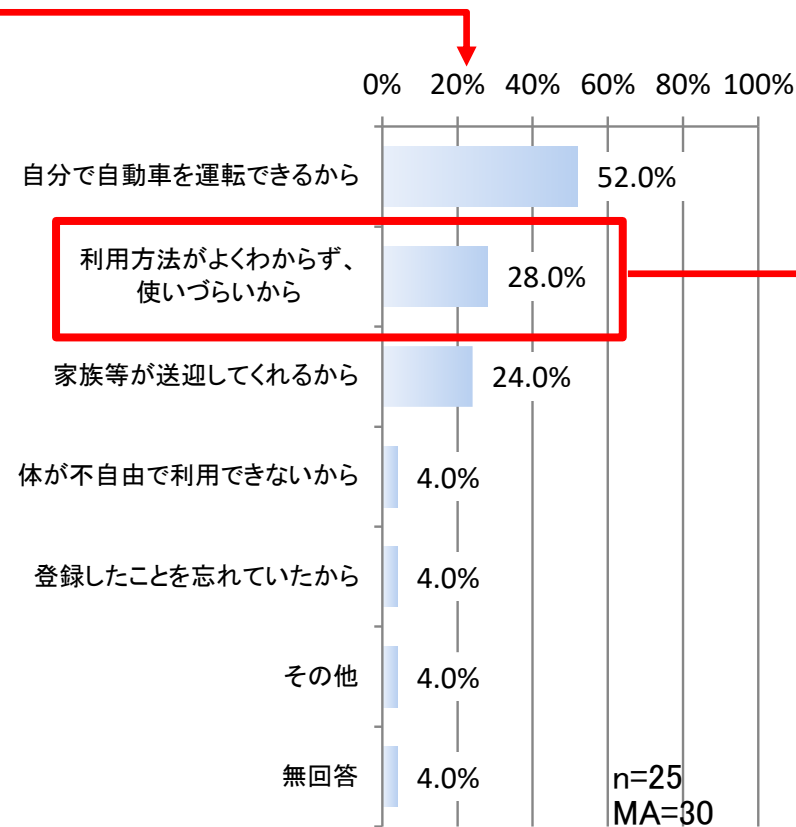


図 ふれ愛タクシーを利用しない理由

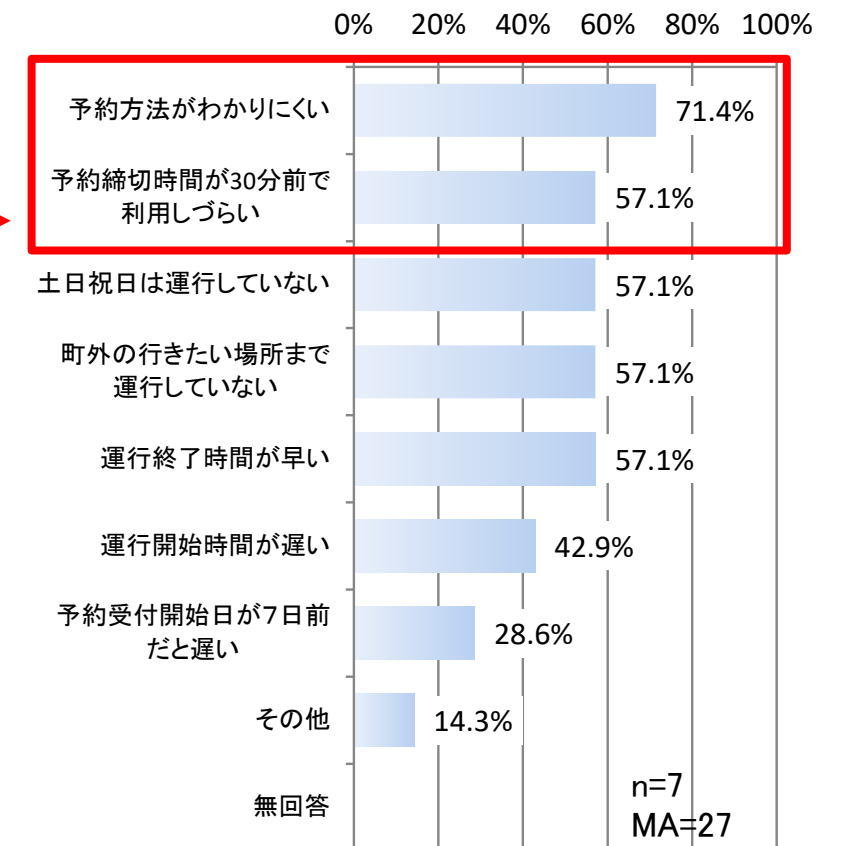


図 ふれ愛タクシーの使いづらい点

- ・非利用者のうち、一部で、利用方法がよくわからず、使いづらいとの回答が見られます。
- ・回答者数が7サンプルと少数ですが、利用方法（予約方法）の周知PRを図るとともに、予約締切時間の短縮について、検討が必要となります。

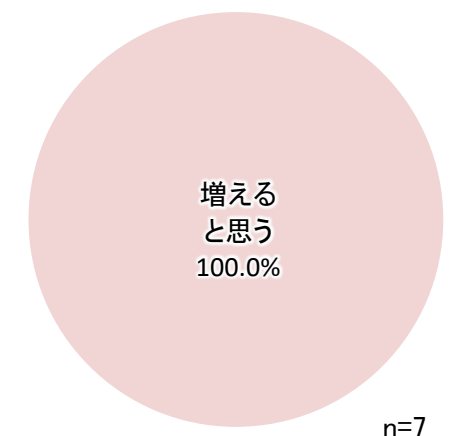


図 使いづらい点が改善された場合の利用意向

福ちゃん号利用者アンケート調査結果概要

■調査概要

1. 調査の実施方法

調査対象者	福ちゃん号の利用者
調査方法	車内留め置き、車内または郵送回収（Web回答も可）
調査時期	令和5年11月13日（月）～令和5年11月26日（日）
回収数	42人

- ・図表中の「N」は設問の有効回答数を示します。
- ・図表中の「MA」は複数回答の設問での有効回答数合計を示します。
- ・調査結果のグラフは、各回答の比率（%）で表示しています。
- ・各回答の比率（%）は、すべて小数点以下第2位を四捨五入した数値であるため、各回答の比率（%）の合計が100%にならない場合があります。
- ・複数回答の場合、回答件数の合計は回答者数(100%)を超える場合があります。
- ・一つに回答に対して複数回答している等、本人の意思が読み取れない回答については集計上無回答に分類しています。

2. 利用頻度や利用目的

・利用目的としては、買物、通院の利用が見られます。週に数回程度の利用が多い状況となっています。

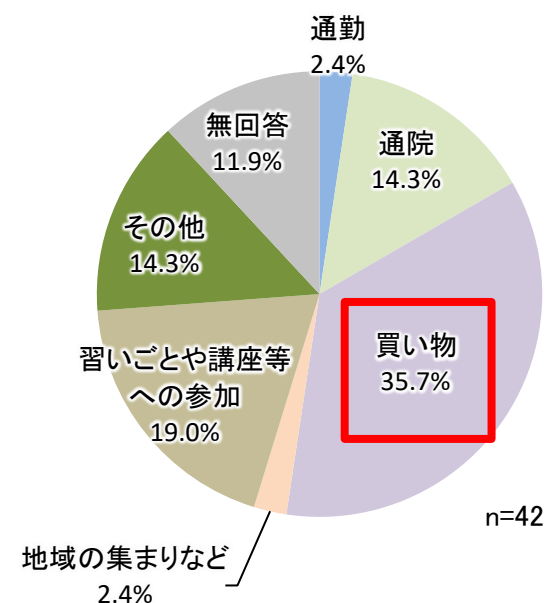


図 1 一番目に多い利用方法の利用目的

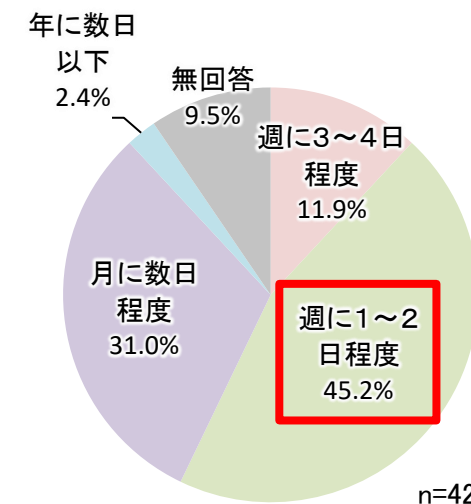


図 1 一番目に多い利用方法の利用頻度

■結果概要

1. 回答者の属性

①年齢及び自動車の運転状況

- ・回答者の年齢は、「75歳以上」が81.0%と最も高くなっています。
- ・自動車の運転状況は、免許を保有していない回答者が多く見られます。

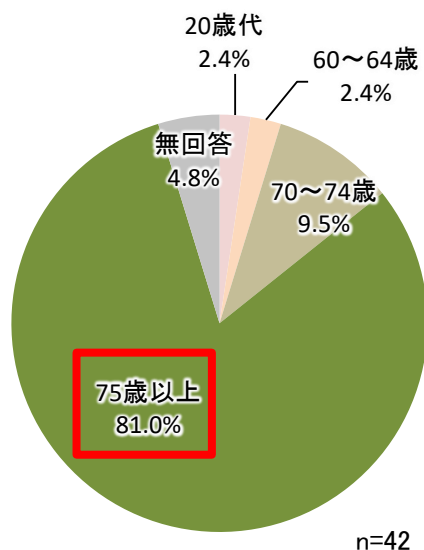


図 年齢

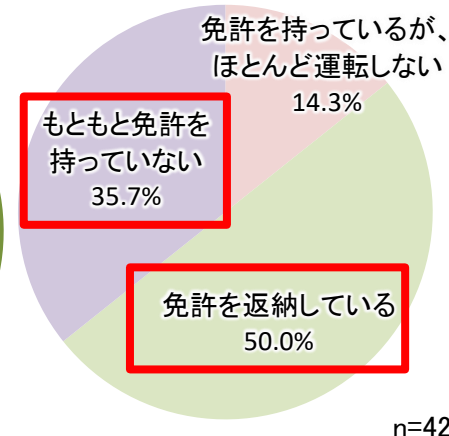


図 自動車の運転状況

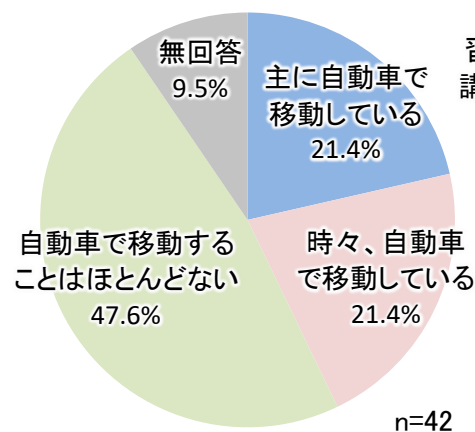


図 自動車での移動状況 (乗せてもらう場合も含む)

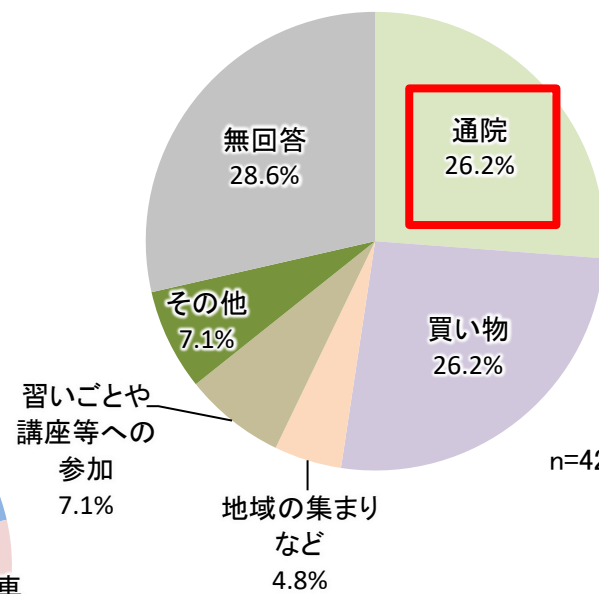


図 2番目に多い利用方法の利用目的

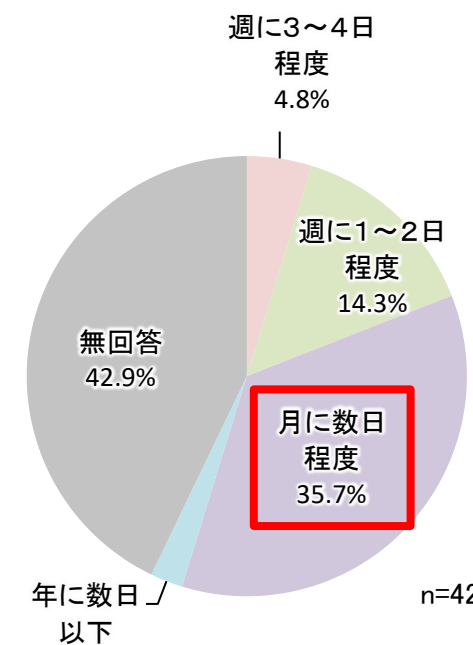


図 2番目に多い利用方法の利用頻度

3. 利用状況

- ・往復利用が57.1%となっている一方で、行きみの利用が21.4%となっています。
- ・片方の移動手段としては、徒歩が多くなっており、他の交通手段の選択肢がない利用者が多く存在している実態が見られます。
- ・理由としては、「時間に合う便がないから」との回答となっています。

・75歳以上の高齢者が多く、福ちゃん号以外の移動の選択肢が限定されている利用者が多く
 なっており、買物や通院を支えています。
 ・運行本数の増加が求められており、有料化による再編、無料のままのルート再編などの検討が必要となります。

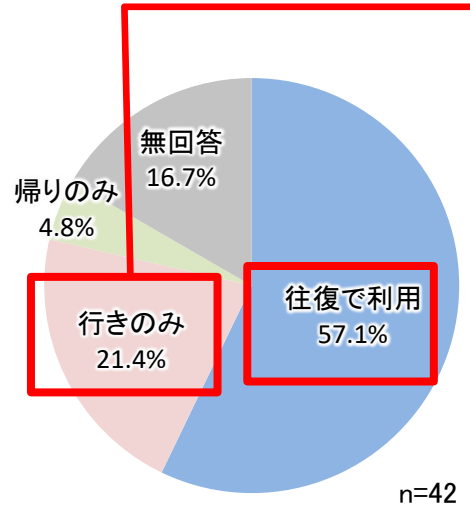


図 1 一番目に多い利用の往復の利用状況

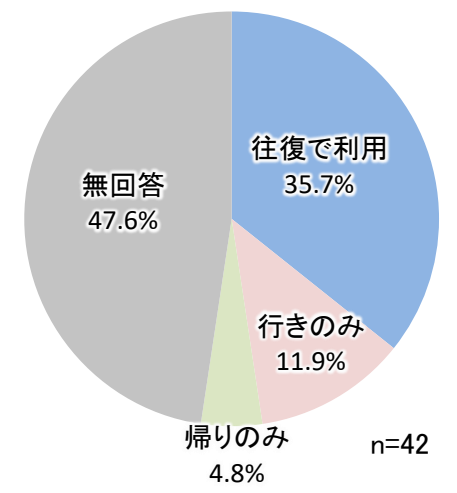


図 2 二番目に多い利用の往復の利用状況

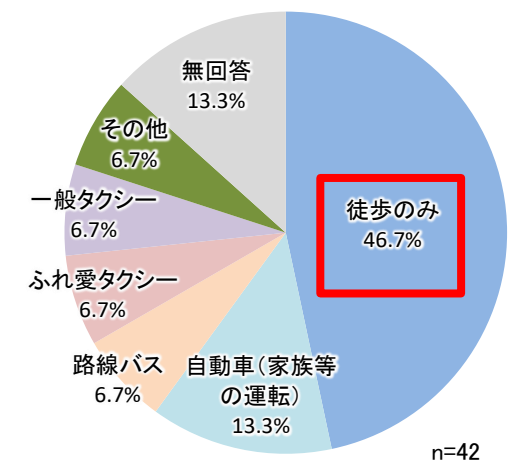


図 往復で利用していない場合の
もう一方の移動手段

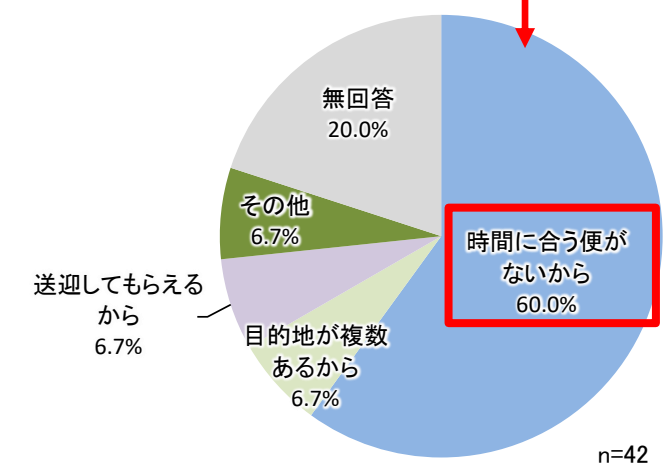


図 往復で利用していない理由

4. 改善ニーズと有料化に対する意見

- ・改善ニーズとしては、運行本数の増加、土日の運行を求める意見が見られます。
- ・有料化に対しては、利便性を向上に伴う有料化を求める回答が61.9%と多い一方で、現在のまま無料運行を求める回答も35.7%と見られます。

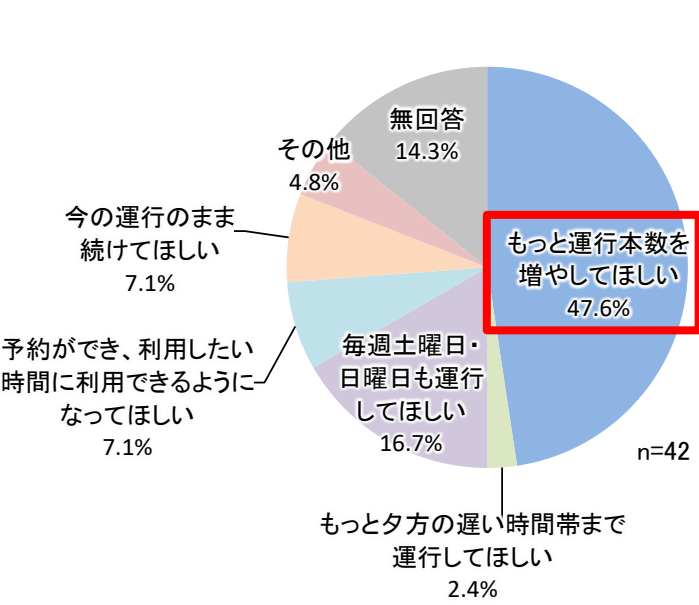


図 今後の福ちゃん号の運行についての考えに最もあてはまる項目

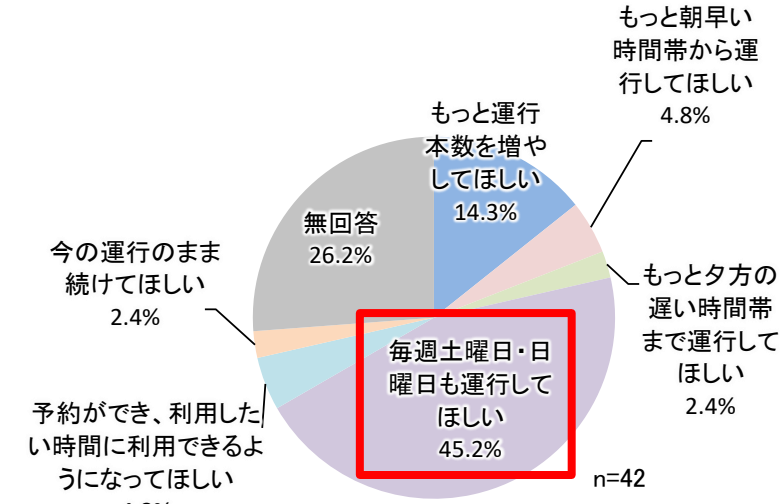


図 今後の福ちゃん号の運行についての考えに2番目にあてはまる項目

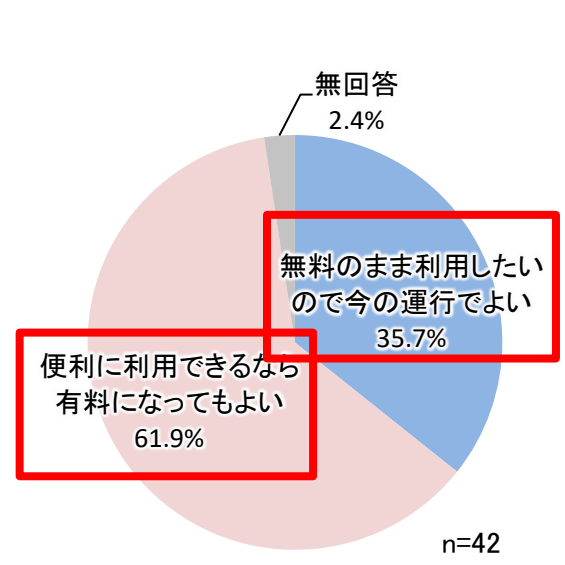


図 福ちゃん号が有料化した場合の利用意向

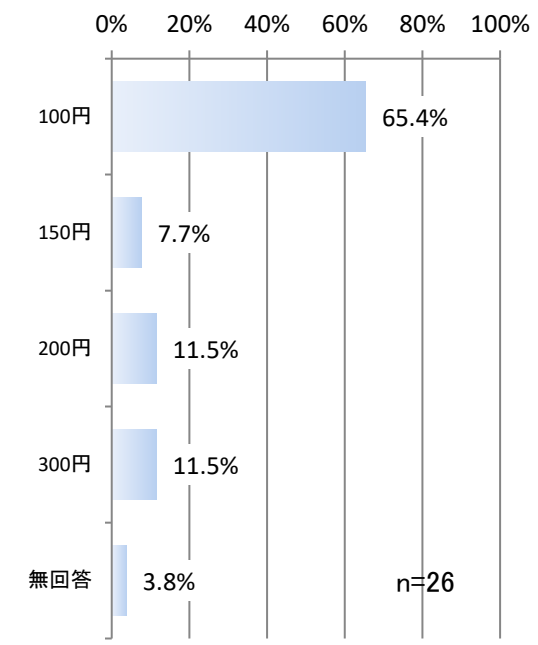


図 有料にした場合の希望する料金

路線バス利用者アンケート調査結果概要

■調査概要

1. 調査の実施方法

調査対象者	路線バスの利用者
調査方法	車内留め置き、車内または郵送回収（Web回答も可）
調査時期	令和5年10月30日（月）～令和5年11月26日（日）
回収数	60人

- ・図表中の「N」は設問の有効回答数を示します。
- ・図表中の「MA」は複数回答の設問での有効回答数合計を示します。
- ・調査結果のグラフは、各回答の比率（%）で表示しています。
- ・各回答の比率（%）は、すべて小数点以下第2位を四捨五入した数値であるため、各回答の比率（%）の合計が100%にならない場合があります。
- ・複数回答の場合、回答件数の合計は回答者数(100%)を超える場合があります。
- ・一つに回答に対して複数回答している等、本人の意思が読み取れない回答については集計上無回答に分類しています。

2. 利用頻度や利用目的

・利用目的としては、通勤、買物の利用が見られます。週5日以上の利用や週に数回程度の利用が多い状況となっています。

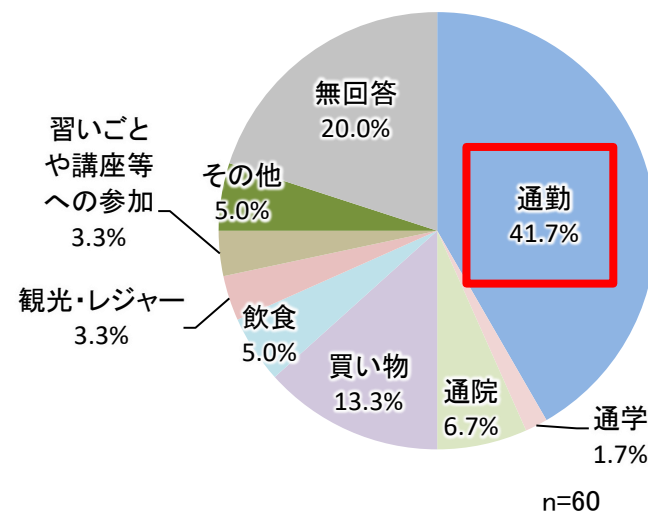


図 1 一番目に多い利用方法の利用目的

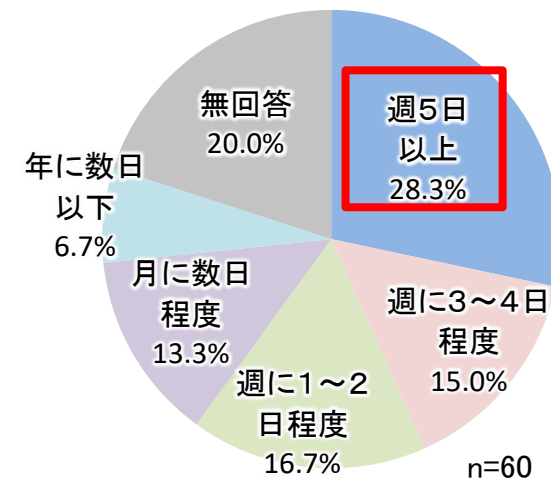


図 1 一番目に多い利用方法の利用頻度

■結果概要

1. 回答者の属性

①年齢及び自動車の運転状況

- ・回答者の年齢は、「75歳以上」が33.3%、50歳代が28.3%と高くなっています。
- ・自動車の運転状況は、免許を保有していない回答者が多く見られます。

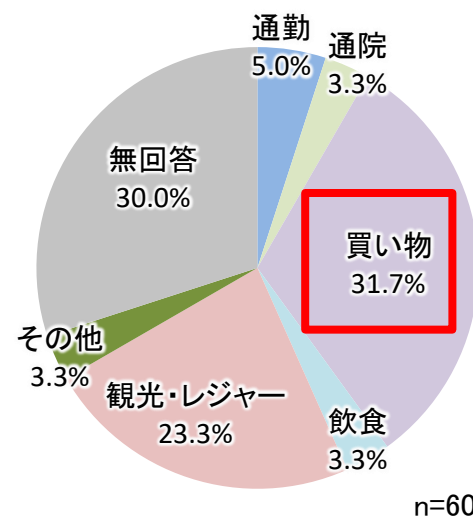


図 2 二番目に多い利用方法の利用目的

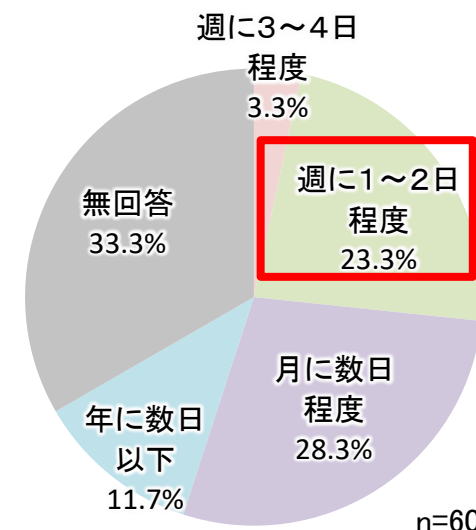


図 2 二番目に多い利用方法の利用頻度

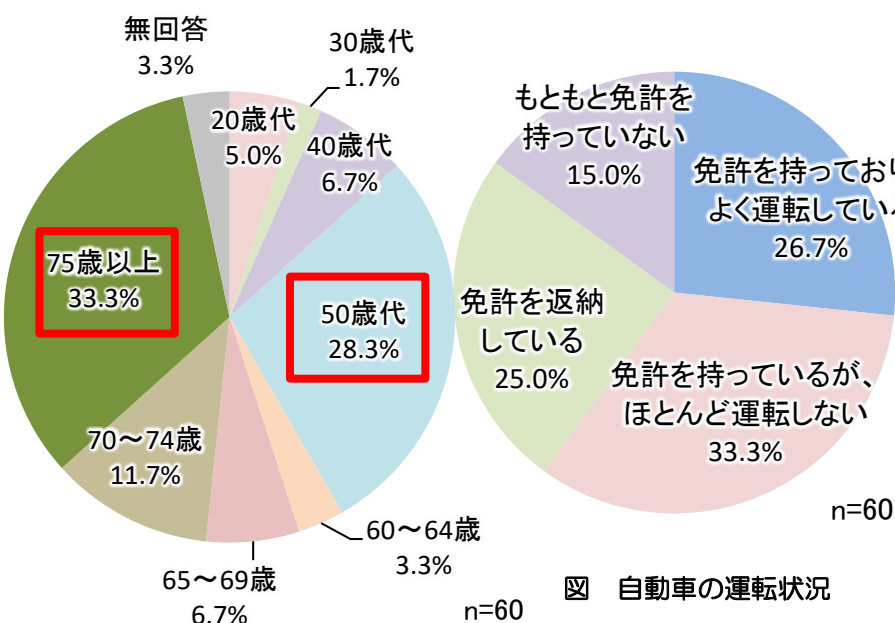


図 自動車の運転状況

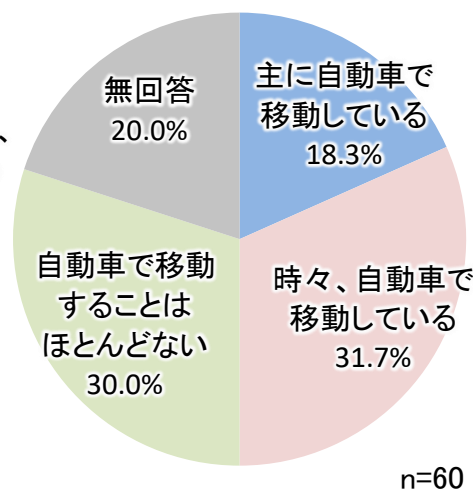


図 自動車での移動状況 (乗せてもらう場合も含む)

3. 利用状況

- ・往復利用が53.3%となっている一方で、行きだけの利用が13.3%となっています。
- ・片方の移動手段としては、自動車(運転・送迎)と徒歩が多くなっています。
- ・理由としては、「時間に合う便がないから」との回答となっています。

・高齢者以外の通勤、高齢者の買物を支えています。
 ・改善ニーズは、各運行時間帯における運行本数の増加、鉄道やバスへの乗り継ぎのしやすさなど、多様化しています。
 ・今後、ニーズの深掘りや実現可能性に向けた検討が必要となります。

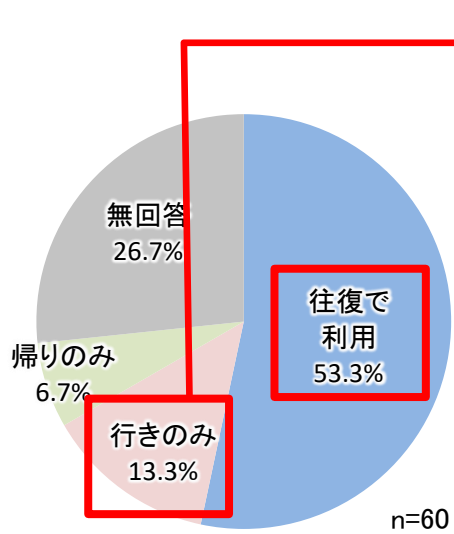


図 1 一番目に多い利用の往復の利用状況

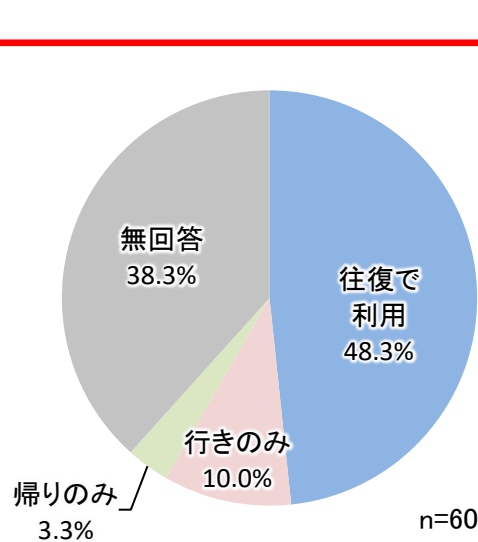


図 2 二番目に多い利用の往復の利用状況

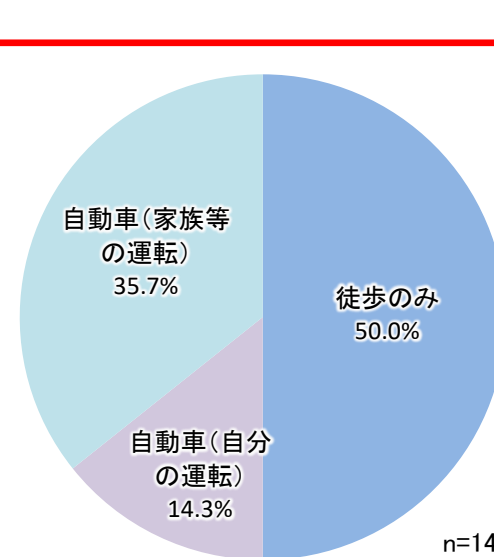


図 往復で利用していない場合の
 のもう一方の移動手段

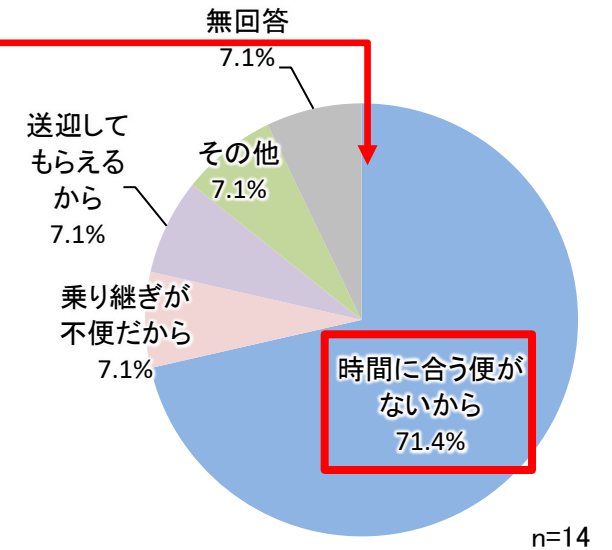


図 往復で利用していない理由

4. 改善ニーズと有料化に対する意見

- ・改善ニーズとしては、各時間帯における運行本数の増加、鉄道やバスへの乗り継ぎのしやすさなど、改善ニーズが多様化しています。
- ・鉄道やバスへの乗り継ぎのしやすさは、現在の運行サービスの中でも対応できる利便性を向上に伴う有料化を求める回答が61.9%と多い一方で、現在のまま無料運行を求める回答も35.7%と見られます。

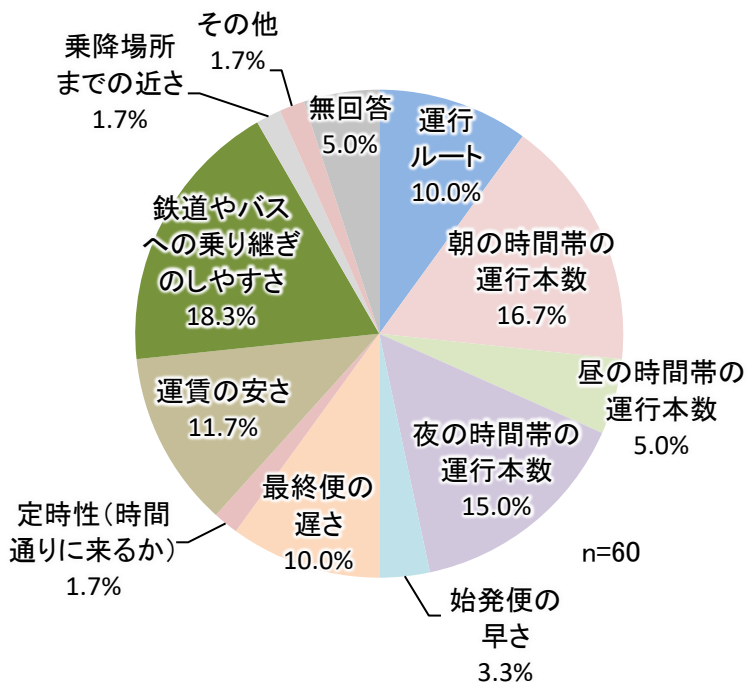


図 公共交通利用で1番目に重要な項目

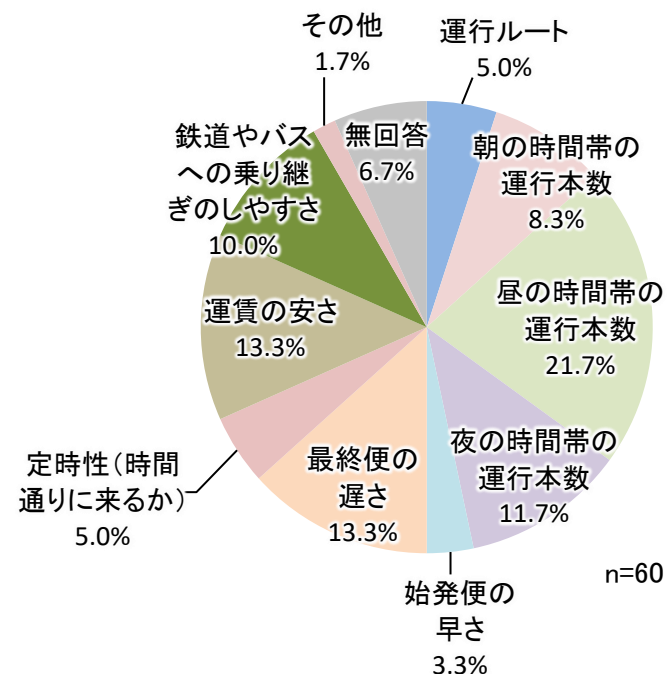


図 公共交通利用で2番目に重要な項目

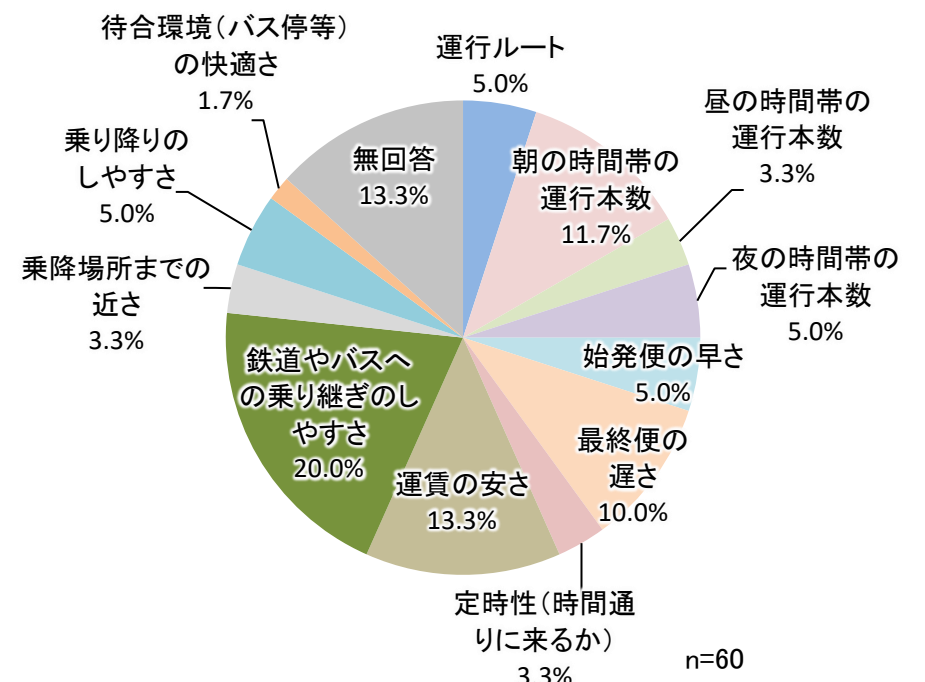


図 公共交通利用で3番目に重要な項目